

2018 短答対策ゼミ・受講上の注意事項

A. ゼミの進め方

1) 予習の方法

- (1) 予習範囲の青本の通読
- (2) 問題集のコピー（原本には、書き込まないこと ∵ 繰り返し使う）
- (3) 問題の検討
 - ①枝毎のレベル分け
 - i) 条文を見なくても解る枝 ○
 - ii) 条文を見れば、解答を導き出せる枝 △
 - iii) 条文や解説を見ても、理解が困難な枝 ×
 - ②問題毎（ルーズリーフ）に、解答のポイントメモ ∵ バラして年度別に
→ ポイントのみ（条項と条文上の文言）でOKー瞬時に確認するためのメモ

2) 復習の方法

- (1) ゼミでの検討を踏まえて、解答メモの補完・修正
- (2) 繰り返し、問題の検討（△×を中心に。）
- (3) 年度別に、問題の検討（解答メモを年度別に並べ直して使用）

B. 条文の読み込み

- (1) 条文の読み込みを継続的に行うこと
- (2) 少なくとも、来年5月末の短答式試験までに、条文の内容をしっかりと意識しながら、最低限、全法域を15回は読むことを目標とする
そのためには、27日間（270日／10回）で、全法域を一回りさせるペースが必要
- (3) その際、各条文毎に、必要な条件を列挙できるように意識すること
- (3) 苦手な法域から穴埋めしていくこと
- (4) 近年の長文の問題文への対応のため、事例形式の論文式試験の問題にも触れて、設問の事実を適用要件の一部としている関連条文を引き出せるようにしておくこと